平成26年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年3月31日

上場会社名 株式会社 シベール　　上場取引所　東
コード番号 2228　URL http://www.cybele.co.jp/
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 佐島清人
問合せ先責任者　(役職名) 常務取締役　(氏名) 本田政信　TEL 023-689-1131

四半期報告書提出予定日　平成26年4月14日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年8月期第2四半期の業績(平成25年9月1日～平成26年2月28日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年8月期第2四半期	1,690	△1.3	△46	―	△49	―	△34	―
25年8月期第2四半期	1,713	△6.4	△45	―	△78	―	△42	―

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年8月期第2四半期	△23.98	―
25年8月期第2四半期	△23.73	―

当社は、平成26年3月1日付けで普通株式1株につき100株の株式分割を行ないました。そのため、1株当たり四半期純利益は当該分割が前事業年度の期首に行なわれたものと仮定して算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年8月期第2四半期	3,827	1,827	47.8
25年8月期	4,007	1,906	47.6

(参考)自己資本　26年8月期第2四半期　1,827百万円　25年8月期　1,906百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年8月期	―	0.00	―	3,000.00	3,000.00
26年8月期	―	0.00			
26年8月期(予想)			―	30.00	30.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　有
平成26年3月1日を効力発生日として普通株式1株につき100株の株式分割を行ないました。平成25年8月期の配当金は当該株式分割前の数値で記載しており、平成26年8月期(予想)の期末配当は当該株式分割を考慮した額を記載しております。

3. 平成26年 8月期の業績予想(平成25年 9月 1日～平成26年 8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,600	0.9	43	279.0	37	―	20	39.2	13.92

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　有
1株当たり当期純利益につきましては、株式分割後の発行済株式数(自己株式を除く)により算出しております。

※　注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：　無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	：	無
②①以外の会計方針の変更	：	無
③会計上の見積りの変更	：	無
④修正再表示	：	無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年8月期2Q	1,806,800 株	25年8月期	1,806,800 株
② 期末自己株式数	26年8月期2Q	370,000 株	25年8月期	370,000 株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年8月期2Q	1,436,800 株	25年8月期2Q	1,798,600 株

（注）当社は、平成26年3月1日付けで普通株式1株につき100株の株式分割を行ないました。そのため、上記株式数につきましては前事業年度の期首に当該分割が行なわれたものと仮定して算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きは終了しておりません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。
2. 当社は、平成26年3月1日付けにて当社普通株式1株につき100株の割合で分割するとともに、単元株式数を100株とする単元株制度を採用しました。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 ……２
（１）経営成績に関する説明 ……２
（２）財政状態に関する説明 ……２
（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明 ……３
２．サマリー情報(注記事項)に関する事項 ……４
（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ……４
（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 ……４
３．四半期財務諸表 ……５
（１）四半期貸借対照表 ……５
（２）四半期損益計算書 ……７
（３）四半期キャッシュ・フロー計算書 ……８
（４）四半期財務諸表に関する注記事項 ……１０
（継続企業の前提に関する注記） ……１０
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） ……１０
（セグメント情報等） ……１０
（重要な後発事象） ……１１
４．補足情報 ……１２
（１）生産及び販売の状況 ……１２

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第２四半期におけるわが国経済は、政府の月例経済報告では「緩やかに回復しつつある」から「緩やかに回復している」と８年ぶりの踏み込んだ表現となり、企業の生産や設備投資、個人消費などで、経済の好循環が持続していると判断されております。また、消費者物価指数の上昇傾向から、物価は「緩やかに上昇している」と、こちらも５年ぶりの表現になり「デフレ」の表現が削除されるに至りました。

当社の業績が依存しております個人消費動向につきましては、消費税増税前の駆け込み需要もあり、「増加している」とされておりますが、平成26年２月は、関東甲信地方や東北地方太平洋側を中心に記録的な大雪となり、急激な悪化をみました。

このような経営環境の下、当社におきましては、「菓子店は街のオアシス」をテーマに地域社会になくてはならない存在を目指し諸施策を実施して参りました。一方、バレンタイン商戦の真っ只中、２週に亘る大雪により、大きな影響を受けました。店舗網半数近くを展開する仙台エリアは78年ぶりの大雪で交通がマヒするなどの事態となり、また、通信販売部門におきましても関東甲信地方を中心に宅配便が約半月にわたり滞り、お客様への配達に遅延・不能が多数発生しました。

これらのこと等から、全社売上高は、前年同期に比べ1.3％減の1,690百万円となりました。営業損益につきましては、売上高の減少から、前年同期より１百万悪化し46百万円の営業損失となりました。経常損益では、前年同期に営業外費用に計上した自己株式取得に伴なう諸費用33百万円が無くなったことから改善し、49百万円の経常損失(前年同期は78百万円)、四半期純損益は四半期純損失34百万円(前年同期は42百万円)となりました。

セグメントの業績の概況につきましては、以下の通りです。

（ＭＩＳ事業）

山形及び仙台の店舗において、洋生菓子その他の焼菓子等、ラスク、パンの販売及びレストラン等を運営する事業であり、前期に出店した寒河江店の効果等による増収が続いておりましたが、前述の大雪の影響等から増収率がやや低下し、売上高は前年同期に比べ4.9％増加の1,217百万円、セグメント利益(営業利益)は51百万円(前年同期比3.9％減)となりました。

（ＰＩＳ事業）

通信販売を中心とするＰＩＳ事業におきましては、カタログの送付回数を減らしたこと等から、主力のラスクが振わなかったことに加え、大雪の影響もあり、売上高は、前期に比べ14.3％減少の473百万円、セグメント利益(営業利益)は72百万円(前年同期比15.4％減)となりました。

（２）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

（資産）

総資産は3,827百万円となり、前事業年度末に比べ179百万円の減少となりました。主に現金及び預金の減少73百万円、売掛金の減少30百万円、減価償却費の計上による有形固定資産の減少62百万円によるものであります。

(負債)

負債合計は1,999万円となり、前事業年度末に比べ101百万円の減少となりました。主に長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)74百万円の増加に対し、短期借入金の減少100百万円、買掛金の減少39百万円、流動負債その他の減少38百万円が上回ったことによるものであります。

(純資産)

純資産は1,827百万円となり、前事業年度末に比べ78百万円の減少となりました。これは、主に四半期純損失の計上34百万円、剰余金の配当43百万円の実施によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第２四半期累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べ73百万円減少し、130百万円となりました。

当第２四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況と、それらの要因は次の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、13百万円(前年同期は39百万円)となりました。これは、主に減価償却費の計上102百万円による資金の増加が、税引前四半期純損失50百万円の計上及び仕入債務の減少39百万円による資金の減少を上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、18百万円(前年同期は61百万円の獲得)となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出20百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、68百万円(前年同期は99百万円の獲得)となりました。これは、長期借入れによる収入300百万円がありましたが、一方で短期借入金の減少100百万円、長期借入金の返済による支出225百万円及び配当金の支払額42百万円により資金が減少したことによるものであります。

(３) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年12月30日に公表致しました平成26年８月期の通期業績予想及び期末配当予想を修正致しました。詳細につきましては本日別途公表の「第２四半期累計期間業績予想と実績値の差異、通期業績予想の修正及び期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

２．サマリー情報(注記事項)に関する事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．四半期財務諸表
（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 （平成25年８月31日）	当第２四半期会計期間 （平成26年２月28日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	224,794	150,869
売掛金	84,118	53,198
たな卸資産	104,212	105,352
その他	65,204	73,512
貸倒引当金	△1,640	△1,027
流動資産合計	476,689	381,905
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,771,073	1,722,890
機械及び装置（純額）	144,057	140,315
土地	1,097,820	1,097,820
その他（純額）	168,670	157,656
有形固定資産合計	3,181,622	3,118,682
無形固定資産	54,200	40,032
投資その他の資産		
投資有価証券	58,019	57,911
その他	237,745	229,946
貸倒引当金	△1,105	△1,072
投資その他の資産合計	294,659	286,785
固定資産合計	3,530,482	3,445,500
資産合計	4,007,172	3,827,405
負債の部		
流動負債		
買掛金	115,627	76,485
短期借入金	100,000	―
1年内返済予定の長期借入金	424,868	356,768
未払金	124,429	124,690
未払法人税等	1,938	4,402
賞与引当金	17,500	17,500
ポイント引当金	18,188	17,631
その他	71,613	32,837
流動負債合計	874,166	630,315
固定負債		
長期借入金	1,189,332	1,331,548
資産除去債務	31,686	31,977
その他	5,595	5,595
固定負債合計	1,226,613	1,369,120
負債合計	2,100,779	1,999,435

（単位：千円）

	前事業年度 （平成25年８月31日）	当第２四半期会計期間 （平成26年２月28日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	488,355	488,355
資本剰余金	554,141	554,141
利益剰余金	1,713,175	1,635,621
自己株式	△851,000	△851,000
株主資本合計	1,904,672	1,827,118
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,720	852
評価・換算差額等合計	1,720	852
純資産合計	1,906,392	1,827,970
負債純資産合計	4,007,172	3,827,405

（２）四半期損益計算書
第２四半期累計期間

（単位：千円）

	前第２四半期累計期間 （自 平成24年９月１日 至 平成25年２月28日）	当第２四半期累計期間 （自 平成25年９月１日 至 平成26年２月28日）
売上高	1,713,489	1,690,936
売上原価	927,301	933,397
売上総利益	786,188	757,538
販売費及び一般管理費	831,922	804,390
営業損失（△）	△45,734	△46,852
営業外収益		
受取利息	25	15
受取配当金	630	400
受取賃貸料	4,986	4,985
貸倒引当金戻入額	15	33
雑収入	2,317	1,419
営業外収益合計	7,976	6,854
営業外費用		
支払利息	7,128	9,409
自己株式取得費用	33,105	－
雑損失	293	550
営業外費用合計	40,527	9,960
経常損失（△）	△78,286	△49,958
特別利益		
保険解約返戻金	5,035	1
投資有価証券売却益	5,230	－
固定資産売却益	－	69
特別利益合計	10,266	70
特別損失		
固定資産除却損	0	829
固定資産売却損	40	－
投資有価証券売却損	234	－
特別損失合計	275	829
税引前四半期純損失（△）	△68,294	△50,717
法人税、住民税及び事業税	1,496	618
法人税等調整額	△27,115	△16,886
法人税等合計	△25,619	△16,267
四半期純損失（△）	△42,675	△34,450

（３）四半期キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第２四半期累計期間 （自 平成24年９月１日 至 平成25年２月28日）	当第２四半期累計期間 （自 平成25年９月１日 至 平成26年２月28日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失（△）	△68,294	△50,717
減価償却費	109,374	102,758
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△149	△647
ポイント引当金の増減額（△は減少）	12	△557
受取利息及び受取配当金	△656	△415
支払利息	7,128	9,409
固定資産除却損	0	829
固定資産売却損益（△は益）	40	△69
投資有価証券売却損益（△は益）	△4,995	－
売上債権の増減額（△は増加）	7,121	32,705
たな卸資産の増減額（△は増加）	△8,349	△1,139
仕入債務の増減額（△は減少）	△15,931	△39,142
未収消費税等の増減額（△は増加）	5,286	－
未払消費税等の増減額（△は減少）	2,020	△2,098
その他	25,749	△39,326
小計	58,356	11,589
利息及び配当金の受取額	656	415
利息の支払額	△11,216	△8,891
法人税等の還付額	－	10,023
法人税等の支払額	△8,783	△94
営業活動によるキャッシュ・フロー	39,014	13,042
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△110,000	△60,000
定期預金の払戻による収入	160,000	60,000
有形固定資産の取得による支出	△28,340	△20,151
有形固定資産の売却による収入	28	190
無形固定資産の取得による支出	△2,792	－
投資有価証券の取得による支出	－	△60
投資有価証券の売却による収入	11,597	－
保険積立金の解約による収入	31,956	－
その他	△1,056	1,869
投資活動によるキャッシュ・フロー	61,394	△18,151
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	150,056	△100,000
長期借入れによる収入	1,100,000	300,000
長期借入金の返済による支出	△212,884	△225,884
自己株式の取得による支出	△884,105	－
配当金の支払額	△54,001	△42,931
財務活動によるキャッシュ・フロー	99,065	△68,815

（単位：千円）

	前第２四半期累計期間 （自 平成24年９月１日 至 平成25年２月28日）	当第２四半期累計期間 （自 平成25年９月１日 至 平成26年２月28日）
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	199,474	△73,924
現金及び現金同等物の期首残高	163,937	204,794
現金及び現金同等物の四半期末残高	363,412	130,869

（４）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

Ⅰ 前第２四半期累計期間(自 平成24年９月１日 至 平成25年２月28日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整（注）１	四半期損益計算書計上額（注）２
	ＰＩＳ事業	ＭＩＳ事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	552,780	1,160,709	1,713,489	―	1,713,489
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	―	―	―
計	552,780	1,160,709	1,713,489	―	1,713,489
セグメント利益	85,322	53,526	138,848	△184,583	△45,734

（注）１ セグメント利益の調整額△184,583千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

２ セグメント利益は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行なっております。

Ⅱ 当第２四半期累計期間(自 平成25年９月１日 至 平成26年２月28日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整（注）１	四半期損益計算書計上額（注）２
	ＰＩＳ事業	ＭＩＳ事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	473,825	1,217,111	1,690,936	―	1,690,936
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	―	―	―
計	473,825	1,217,111	1,690,936	―	1,690,936
セグメント利益	72,172	51,430	123,602	△170,454	△46,852

（注）１ セグメント利益の調整額△170,454千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

２ セグメント利益は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行なっております。

（重要な後発事象）

株式分割及び単元株制度の採用

当社は、平成26年１月20日開催の取締役会決議に基づき、平成26年３月１日付けで、株式分割及び単元株制度を採用しました。

１．株式分割及び単元株制度の採用の目的

全国証券取引所が公表した「売買単位の集約に向けた行動計画」の趣旨に鑑み、株式の売買単位を100株とするため、当社普通株式を１株につき100株に分割するとともに、１単元の株式の数を100株とする単元株制度を採用しました。なお、この株式分割及び単元株制度の採用に伴なう投資単位の実質的な変更はありません。

２．株式分割の概要

(1) 分割の方法

平成26年２月28日を基準日として、同日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主の所有する普通株式を１株につき100株の割合をもって分割しました。

(2) 分割により増加した株式数

① 株式分割前の発行済株式数 18,068株

② 株式分割により増加した株式数 1,788,732株

③ 株式分割後の発行済株式数 1,806,800株

④ 株式分割後の発行可能株式総数 6,000,000株

３．分割の時期

平成26年３月１日を効力発生日としております。

４．単元株制度の採用

(1) 新設した単元株式の数

株式分割の効力発生日（平成26年３月１日）をもって単元株制度を採用し、単元株式数を100株としました。

(2) 新設の効力発生日

平成26年３月１日

４．補足情報

（１）生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

当第２四半期累計期間における生産実績を品目ごとに示すと、次の通りであります。

品目	生産金額（千円）	前年同四半期比（％）
ラスク	313,966	87.2
洋生菓子及びその他焼菓子等	318,358	103.7
パン	249,416	118.5
合計	881,740	100.5

（注）１　金額は、製造原価によっております。
２　「洋生菓子」と「その他焼菓子等」は管理上区分が困難であるため、一括して記載しております。
３　上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

② 販売実績

当第２四半期累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次の通りであります。

セグメントの名称	品目	販売金額（千円）	前年同四半期比（％）
ＰＩＳ事業	ラスク	392,248	83.8
	その他焼菓子等	66,873	96.7
	洋生菓子	14,702	95.0
	計	473,825	85.7
ＭＩＳ事業	ラスク	310,072	95.1
	パン	346,577	114.1
	洋生菓子	213,570	102.4
	その他焼菓子等	186,893	116.0
	料飲	159,996	99.2
	計	1,217,111	104.9
	合計	1,690,936	98.7

（注）上記の金額には、消費税等は含まれておりません。